

---

# ラブレター

桂 ヒナギク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
ラブレター

【Nコード】  
N7907D

【作者名】  
桂 ヒナギク

【あらすじ】  
ハヤテが書いたラブレターを文に直接渡して・・・。

(前書き)

これは颯×文のIFSです。原作とは関わりを持ちません。

白皇学院に通う高等部2年の綾崎 颯は、三千院家の執事である。その彼には今、気になっっている人が居る。

今年、高等部1年に入学した日比野 文である。

「はあ」

ハヤテは校門の前で溜め息を吐いた。

手にしているのは、ハート型のシールで封をした封筒。ラブレターの様だ。

（今日も渡せなかったなあ）

ハヤテはラブレターを見ながら心中で言った。

そこへヒナギクが現れ訊ねる。

「あら、ハヤテくん。こんな所でどうしたの？」

「あ、ヒナギクさん。もう帰りですか？」

「うん。所で、それ何？」

「これ？ラブレターです」

「誰から？」

「僕が書いたんですよ」

「私に？」

「何期待してんですか？」

「なっ、違うわよ！ハヤテくんのバカ！」

ヒナギクは走り去って行った。

それと入れ替わりに、文が「忘れ物」と連呼しながらやって来た。インド人のシャルナとセットで。

（チャンス！）

そう思ったハヤテは、文に声を掛けた。

「日比野さん！」

「うわっ、誰ですかあなた!？」

文は立ち止まり、振り向くと驚いてそう言う。

その行動にシャルナが突っ込む。

「文ちゃん、落ち着いて。この人は文ちゃんの知ってる人だから」

「え、文の知ってる人ですか!？」

「綾崎です。これを受け取って下さい」

ハヤテは半は強引にラブレターを渡して去っていった。

「シャルナちゃん、これは何なんでしょう!？」

「読んでみれば判るんじゃない？」

文は封を開け、中に入ってる紙に書かれた文章を読んだ。

『僕は、始めてあなたを見た時、胸がトキメキました。良かったら僕と付き合って下さい。ハヤテ』

「良かったわね、文ちゃん。これで私も一々突っ込まないで済むわ。これからあの人に突っ込んで貰うのよ」

シャルナはそう言うのと去っていった。

文はどうしたら良いか判らなくなり、取り敢えず走り出した。

ドッ!

何かにぶつかり、尻餅を着く文。

「大丈夫ですか？」

目の前に手が差し出された。

その手を辿って上を見上げると、ハヤテの顔がそこに在った。

「あの、私、女の子ですけど良いんでしょうか!？」

「はい」

ハヤテはニッコリと笑う。

「レズですか!？文、女の子に告白されました!」

その言葉にハヤテは傷付いた。

「僕、男なんですけどね」

「えっ、男なんですか!？でも男で女顔ってのは無いですよね」

ピキッ!

ハヤテは額に青筋を立てた。

(はっ!いかん!これしきの事で怒っては、日比野さんに嫌われてしまっ!)

ハヤテは苦笑いして答える事にした。

「そうですね。有り得ませんよね。どうしてこんな顔に生まれたんだらう?」

と棒読みで。

「そんな事より、返事しに来てくれたんですね?」

文は頷いた。

「どうですか!? 僕と付き合ってくれませんか!?」

文は勢いに圧され、つい頷いてしまう。

「本当ですか!? 有り難う御座います!」

ハヤテは大喜びで帰っていった。

こうして、二人は付き合う事になった、そうな。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7907d/>

---

ラブレター

2010年10月28日08時43分発行